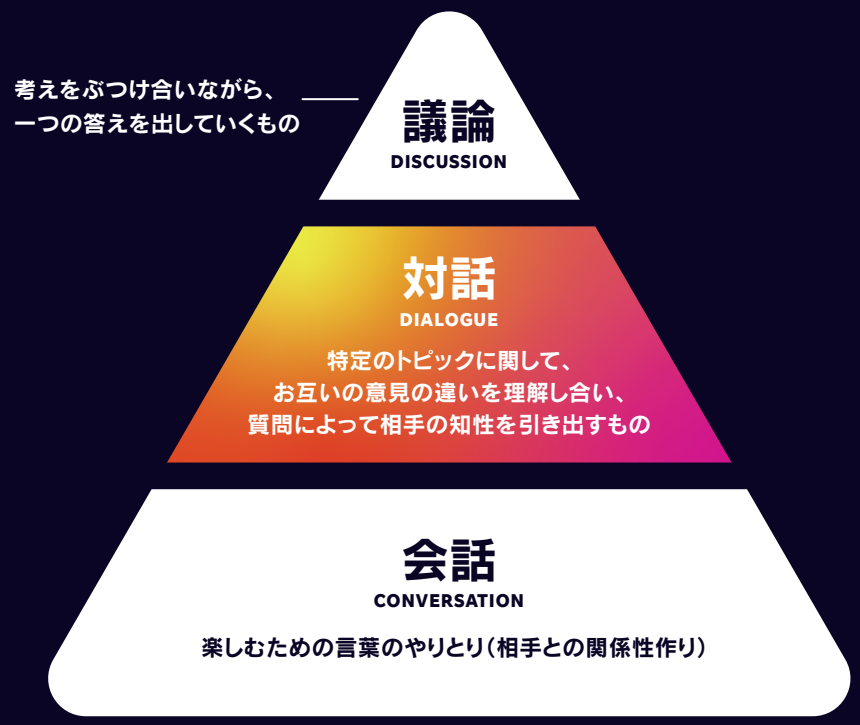
Dialogue for Change

with Rakuten

対話とは

一つの答えを見つけるための議論ではなく、特定のトピックに関して、お互いの意見の違いを理解し合い、質問によって新たな知を引き出すのが「対話」です。解決策を見出すことが難しい複雑な社会課題が増える中で、多様なステークホルダーによる「対話」の役割は広がっています。



©Future Sessions Inc.

対話の流れ

「問い」から「アクション」まで、7つのステップで対話を深めます。必要に応じて前後のステップを行き来します。

1 問いを共有する

多様なステークホルダーが対話していくためのきっかけとなる「問い」を共有します。あなたが最近気になることは何ですか？それはなぜですか？一人では解決できないことも、誰かと対話することで新しいやり方を見つけることができるかもしれません。「問い」を共有する際、自分の言葉で想いを持って語ることも大切です。

ONE POINT TIP　「問い」のタネを見つけよう

対話は、一つの正解がないテーマを探求していくものです。みんなが何となく気になっていること、モヤモヤを感じることは、みんなが自分ごととして考えられる良い「問い」につながります。

2 関係性をつくる

対話の場には、「問い」のもとに、多様な人が集まってきます。様々なバックグラウンドを持つメンバー同士が関係性を深め、安心・安全な対話の場をつくっていくために、アイスブレイクや自己紹介の方法を工夫しながら、コミュニケーションを重ねていきます。

ONE POINT TIP　よい対話は関係性から

初対面のメンバーが多い場合、お互いの人となりを理解する時間も必要です。自分を3つの短いキーワードで表現して、それをもとに会話を広げてみましょう。ニックネームで呼び合うことも、フラットな対話の場づくりに役立ちます。

3 多様な知識を持ち寄る

多様な人の多様な視点から知識を持ち寄ることで、まるで化学反応のように新しい気付きが生まれます。一見関係がないように思えることの間につながりを見つけたり、自分が全く知らないことを隣の人がよく知っていたり。お互いの違いから、気付きを分かち合い、学び合い、視野を広げて新しい発想につなげていきます。

ONE POINT TIP　大切な情報は現場にある

フィールドワークのように直接現地に行って、直接人と会って対話することは、時間も手間もかかりますが、そのぶんオンラインや会議室の中だけでは得られない生の情報に触れることができます。

MEMO

4 ありたい未来を描く

「こんなふうになったらいいな！」というワクワクする未来のイメージを具体化しみんなで共有します。まだ誰もわからない未来のことを考える時、そこに正解・不正解はありません。大切なことは、実現できるかどうかではなく、ありたい未来から逆算（バックキャスティング）して考えることです。それが対話に創造性をもたらし、新しいアイデアを生みだすことにつながります。

ONE POINT TIP　わかりやすく表現する

模造紙や付箋などのツールを活用して、文字だけでなく絵や図で表現したり、キャッチフレーズのように一言で表現することもイメージの具体化に役立ちます。

5 アイデアを広げる

ありたい未来に近づくためのアイデアを広げる段階です。どうすればSTEP4で描いた「ありたい未来」にたどり着けるか、たくさんのアイデアを出し合います。実現可能性は一旦無視し、多様な視点からアイデアを広げていきます。アイデアを選ぶ段階では、メンバー同士で好きなアイデアに投票し合ったり、似ているものを組み合わせてまとめていきます。

ONE POINT TIP　とにかく数を出す

アイデアの批評は後回しにし、まずはとにかく数を出すことが大切です。また、他人のアイデアに相乗りすること、突拍子もないアイデアを否定しないこと、他チームとアイデアを共有し合うことも思考を広げることにつながります。

6 プロトタイピングする

これだ！というアイデアを見つけたら、素早く形にしてみます。頭の中だけではなく「実際にやってみること」が、思いもよらない次のアイデアを生み出してくれるかもしれません。完成度にはこだわらず、できるだけ簡単な方法で早く形にし、必要に応じて作り直してアイデアをブラッシュアップします。

ONE POINT TIP　プロトタイプの形は自由で良い

プロトタイプ（試作）は、絵でも、紙工作でも、物語でも、演劇や動画でも、手書きメモのような簡単なものでも、何でも構いません。未来の社会を想像して、架空の新聞や雑誌の記事を書いてみることも一つの手法です。

7 アクションを生み出す

ありたい未来やアイデアが壮大であるほど、その道のりは遠く感じられてしまいます。まずは、ありたい未来に向かってアクションしていくために、はじめの一歩を踏み出します。はじめの一歩とは、「今日・明日から始める具体的な行動」です。どんなに小さくてもまずは一歩を踏み出してみることで次につながります。

ONE POINT TIP　アクションにより新たな仲間が増える

小さくても、まずはアクションしてみると、そのビジョンに共感した新しい仲間が集まってきます。新たな仲間や気付きを得て、試行錯誤を繰り返す中で、ありたい未来に近づいていきます。

おわりに

不確実性を増すこの世界で、様々な社会課題に向き合い、

「ありたい未来」を作っていくためには、多様な人の多様な視点を

持ち寄ることがますます重要になっています。

そのためには、答えを決める「議論」だけではなく、

もっと「対話」が必要なのではないか？

Dialogue for Changeの取り組みは、そんな想いから始まりました。

「対話」は「議論」と比べて一見遠回りにもみえますが、一つの正解がない

テーマをみんなで考えることに向いています。

企業や組織の中でも、地域や社会の様々な場面でも、

ありたい未来をつくるために、

もっと「対話」してみませんか？

対話を経験して

プロセスの大切さを実感

普段は「結論」や問いに対する「正解」が何かを重視することが多かったのですが、
じっくりと対話に向き合うことで、違いを内包しながら考えアクションするという
プロセスの大切さを知ることができました。

現場から得られる気付き

コロナ禍以降、対面でのコミュニケーションが少なくなっていましたが、
やはり直接現地に行って、たくさんの人と直接会って対話することから得られる
気付きや学びは大きな価値があると思います。

「問い」が「問い」につながる

多様なメンバーとの対話の中で、はじめの「問い」からは想像していなかったことが、
実は本質的に重要だったと気づくことが何度もありました。
よい「問い」は、次のよい「問い」につながると思います。

Rakuten

Dialogue for Change
with Rakuten

制作協力：株式会社フューチャーセッションズ